

施策・基本事業評価表

優先度：成果＝中。財源＝低。●都市対策課、道路・水路課

番号	施策名	施策の対象	施策のねらい	区分	施策の成果指標	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前期 目標値	24年度	28年度 (目標)	評価	評価の判定理由と原因分析の説明	今後の取り組み等
1-4	秩序ある市域の整備	・市民 ・筑後市全域	乱開発されず、秩序ある市域が構成され、市全体が調和の取れた発展をしている。	成果	住宅、商業、農地、工場、公園などが計画的に開発・配置されている(乱開発されていない)と思う市民の割合(%)	44.4	44.8	42.7	52.5	48.1	51.4	47.5	▲	50.6	▲	順調	新幹線開業、国道442号バイパス開通、八女インター線開通など、市を取り巻く都市環境は変化し続けており、市内の開発も進んでいることから一定の指標維持につながっていると考えられる。	今後も各用途地域における都市環境の変化に応じて注視しつつ、計画的な土地利用への理解を求めていく。また、地区に応じた計画策定の検討を行い、用途に沿った都市施設の整備について誘導を行う。

番号	基本事業名称	基本事業の対象	基本事業のねらい	区分	基本事業の成果指標	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前期 目標値	24年度	28年度 (目標)	評価	評価の判定理由と原因分析の説明	今後の取り組み等
01	計画的な土地利用と市街地整備の推進	・市民 ・筑後市全域	・土地利用を環境変化にあわせ変更し、用途にあった開発がされている。 ・農業振興地域内の無秩序な宅地開発を規制し、優良農地が保全されている。	成果	全建築申請中に占める都市計画用途地域内の申請割合(%)	30.6	25.5	32.9	30.1	32.3	33.8	33.8	35.0	30.6	35.0	横ばい	市域の中で15%程度の用途地域内において、約30%の建築確認申請が行われているものの、昨年同様、比較的地価の低い用途無指定地域への需要が高い。	建築需要は経済状況等に影響を受けやすく、最近の市内の建物用途としては住居系用途が多くを占めている。引き続き混在を防ぎ調和のとれた誘導を行う。
				成果	都市計画用途地域内農地率(%)	22.8	22.3	22.0	21.9	21.7	21.4	20.7	20.0	20.3	20.5	目標達成	順調に用途地域内の農地が減少しており、農業振興地域からの誘導が図られている。	引き続き適切な規制・誘導を実施していく。
				成果	優良農地率(%)	79.0	79.0	79.3	79.6	80.2	80.2	80.3	80.0	80.3	78.9	目標達成	農業振興地域内において概ね優良農地は保全されており、その他の農地について転用が進んでいる傾向にある。	引き続き適切な規制・誘導を実施していく。
02	公園の整備・維持管理	・市民 ・公園	・公園の効果的整備により、市民が安らげる公園施設が充足している。 ・市民協働での維持管理が充実することで、公園が安全に利用できる。	成果	市民1人あたり公園面積(m ² /人)	6.3	6.3	6.3	6.4	6.4	7.4	12.1	8.0	12.0	11.0	目標達成	県営筑後広域公園の整備により、市内の公園の総面積は、588,827㎡となり、市の目標である人口50,000人においても、目標を達成している。	目標は達成しており、今後は公園の維持管理を充足させる。
				成果	公園の量・施設に満足している市民の割合(%)	74.5	73.8	74.5	78.0	79.4	79.6	76.6	▲	76.0	▲	横ばい	アンケート結果は概ね目標値に近い数値で推移している。その中で、「遊具等の設備が少ない、又は老朽化している。」「公園内に木陰が無い。逆に、樹木が多い公園では、防犯上危険である。」「大きい公園はあるが、小規模でも身近に公園や広場が欲しい。」などの意見が出されている。	平成25年度において、市民の森公園に健康遊具を設置する。また、二川みんなの公園に新たな園路を整備することで、市民が利用しやすい環境整備を行う。遊具等については、今後も定期点検を継続し、修繕、改修を行い、また、樹木についても検討を行い、安全に利用できるようにすることで、成果の向上を図る。
				成果	市民協働で管理されている公園数(カ所)	3	4	6	8	8	8	8	6	10	8	目標達成	市内の公園の清掃等の日常の維持管理について、19ヶ所(うち2カ所は、社会教育課管理)のうち6ヶ所を地元と業務委託契約している。それらのほか、4カ所の公園において環境パートナー制度の登録をしている。	今後も、市が管理する公園については、地元への委託管理及び環境パートナー制度を活用していく。
03	バリアフリーの推進	・高齢者・身体障害者等	公共施設等のバリアフリー化に努め、高齢者や身体障害者等にとって生活しやすいまちになっている。	成果	歩道の点字ブロック設置総延長(km)	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	5.0	5.5	5.0	6.3	6.0	目標達成	道路整備に併せて点字ブロック設置を行うことにより、設置が可能である歩道については順調に整備が進んでいる。	今後は狭小な交差点や、歩道の無い道路など設置困難な箇所が多いため、歩道幅や交差点改良時において、併せて導入推進を図る。
				成果	公共施設バリアフリー化率(%)	65.2	65.3	66.3	67.5	68.1	68.3	72.0	75.0	72.8	70.0	目標達成	バリアフリー化率は、順調に伸びているが、施設の増改築に伴うもので、バリアフリー化に特化した改修は行っていない。	施設の増改築に伴い、バリアフリー化の内容も十分検討のうえ増加を図る。